



### ●トピックス

- ・郡山市産日本なしがベトナムへ輸出されました。
- ・6次化商品を「こおりやま産業博」に出展しました。
- ・『田んぼの学校』で稲刈りを行いました。
- ・平成29年度県中地方高病原性鳥インフルエンザ等防疫演習を実施しました。
- ・「石川地方グリーン・ツーリズム推進協議会」設立総会を開催しました。
- ・『世界かんがい施設遺産登録記念碑除幕式』が開催されました。
- ・「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン（第4回県産農産物PR）を開催しました。
- ・『「絆」で拓く！ふくしま未来農業創出事業』の第2回コンソーシアム会議の開催及び販促活動を行いました。
- ・「就農サポートパック・ツーリズム」を開催しました。
- ・「ふくしまからチャレンジ！！就農フェア」が開催されました。
- ・ふくしま食育実践サポーターによる食育の授業が行われました。
- ・林業・木材産業見学ツアーを開催しました。
- ・平成29年度第2回県中地方・地域産業6次化ネットワーク交流会、及び第2回県中地方・地域特産品創出クラスター分科会を開催しました。
- ・全国植樹祭カウントダウンスタートセレモニーが開催されました。
- ・取得しようGAP（農業生産工程管理）認証

### ●お知らせ

- ・日本なし樹木ジョイント仕立て研修会を開催します。
- ・平成29年度食品表示法研修会を開催します。

## トピックス

### 郡山市産日本なしがベトナムへ輸出されました。

#### 【農業振興普及部】

J A福島さくら郡山地区梨生産部会では、震災により中断していた日本なし輸出の再開に向けて本格的に取り組んできました。8月8日（火）～9日（水）には横浜食物検疫所塩釜支所の検疫官による最終栽培地検査が行われ、全ほ場（49ほ場）で合格となりました。

10月上旬にはベトナムへ向けて「二十世紀」7tが船により輸出され、同月26日（木）～30日（月）にはホーチミン市でJ A梨部会による販売促進活動が行われました。なしの品質は良好で、消費者の反応も良く販売も好調でした。

輸出の取組を通じて産地の知名度・ブランド力の向上が期待されます。引き続き、関係機関と連携し、輸出拡大に向けた取り組みを支援してまいります。



ベトナムのイオンモールでのプロモーション



ナシを手にする消費者

6次化商品を「こおりやま産業博」に出展しました。

【企画部】

10月7日（土）、8日（日）に郡山市のビックパレットふくしまで開催された「こおりやま産業博-KORIYAMA EXPO2017-」に出展しました。

産業博では、202の企業・団体が出展し、さまざまな産業の紹介や食の提供が行われ、2万2千人を超える来場者があり、大変賑やかなイベントとなりました。

県中農林事務所では、県中地方・地域産業6次化ネットワーク会員6社の皆様と連携し、3ブースを出展して6次化商品の直接販売・PR、試食・アンケート調査を実施しました。

アンケート結果は、取りまとめのうえ出品者へ送り、6次化商品のブラッシュアップに役立てていただきます。



ふくしまの6次化商品



産業博での様子

『田んぼの学校』で稲刈りを行いました。

【農村整備部】

10月12日（木）、郡山市立高野小学校で『田んぼの学校』の稲刈りを行いました。

『田んぼの学校』は、農業体験を通して農業の楽しさや作業の大変さなどを学び、子供たちが「農業や農村地域、環境、食、命の大切さ」について理解を深め、豊かな感性を持ってもらうことを目的として実施しています。

当日は、5月に全校児童で田植えを行った小学校近くの水田において、1年生から6年生まで全校児童41名が参加し、地域の農家の方々や先生方の指導を受けながら、稲刈り鎌を使った刈り取り作業と刈り取った稲をワラで束ねる作業を行いました。はじめは稲刈り鎌を恐る恐る使っていた子供たちも、徐々に慣れてくると交代しながら競うように作業を行い、全ての稲を刈り取ることができました。

作業のあとは、地域の方々が準備してくださった新米の「おにぎり」を田んぼでいただきました。



稲刈りの状況



新米「おにぎり」をいただきました



平成29年度県中地方高病原性鳥インフルエンザ等防疫演習を実施しました。

【農業振興普及部】

10月30日（月）、県中地方での高病原性鳥インフルエンザの発生を想定し、関係機関における連絡調整と防疫作業に必要な業務について、県三春合同庁舎を会場に防疫演習を行いました。

当日は、国、自衛隊、市町村等の関係機関から約100名の参加により、午前中は高病原性鳥インフルエンザの発生状況や発生時の対応について室内での説明があり、午後からは実際に参加者に役割を割り振り、地方対策本部、集合センター、現地事務所間の連絡体制を確認するとともに、防護服を着用しての一連の防疫措置を体験しました。

演習後のアンケート調査からは、防護服の脱衣や鶏の捕獲を難しく感じる参加者が多く、また、埋却地の確保を不安視するなどの意見も寄せられたことから、万が一の発生に備え、引き続き、情報共有や防疫体制の強化に努めます。



防護服の着衣演習



鶏の追いこみ演習

「石川地方グリーン・ツーリズム推進協議会」設立総会を開催しました。

【企画部】

10月31日（火）に古殿町公民館において、石川地方グリーン・ツーリズム推進協議会を26名の参加により設立しました。

設立総会では、初代会長に小澤啓子氏（古殿町、ふるさと工房おざわふぁーむ）、副会長に岩谷金良氏（平田村、酪農家）が選出されました。

続いて開催された第1回総会では、平成29年度事業計画（案）、平成30年度事業要望（案）について承認されました。

続いて記念講演として、一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構次長の花垣紀之氏より、「石川地方のグリーン・ツーリズム協議会設立による可能性と今後求められること」と題して、平成26年～27年にかけて石川地方でワークショップや現地調査を開催し、石川地方の課題や目標について勉強してきていることから、今後は農村交流ビジネスの恒常化を目指して、積極的な交流活動を展開して欲しいとのお話がありました。



会長のあいさつ



記念講演の様子

## 『世界かんがい施設遺産登録記念碑除幕式』が開催されました。

【農村整備部】

昨年11月に安積疏水が世界かんがい施設遺産に登録されたことを記念し、安積疏水土地改良区がこの栄誉を後世に伝えるため、11月9日（木）に記念碑の除幕式が安積疏水土地改良区で開催されました。

除幕式には、本土地改良区の理事も務めている根本衆議院議員をはじめ、吉崎郡山市副市長、及川東北農政局阿武隈土地改良調査管理事務所安積疏水特別監視支所長ほか土地改良区理事、役員等、約40名が参加し盛大に開催されました。

県中農林事務所からは、桃井所長が来賓として出席し、祝辞並びに除幕を行いました。

祝辞では、登録の栄誉を讃えるとともに、開削から135年の長きにわたり、かんがい用水施設として管理を行ってきた先人の並々ならぬ労苦と土地改良区の業績に対して感謝を述べ、さらに、世界に誇れるかんがい遺産として、将来にわたり本施設が適切に保全、管理されていくことに期待を寄せ、お祝いの言葉で締めくくりました。



記念碑の除幕式



記念撮影

## 「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン（第4回県産農産物PR）を開催しました。

【企画部】

11月11日（土）に、今年度4回目の県産農産物PRイベントを福島空港で行われた「ふくしま道の駅・空の駅まつり」との同時開催で実施しました。

今回は、テーマを「福島県産のお米」とし、県のオリジナル品種「天のつぶ」の新米が当たる抽選会やオリジナル新品種「里山のつぶ」の試食・PR、米の全量全袋検査体制等のパネル解説やパンフレット配布などを行いました。

また、ライシーホワイトの星野雅子さん、鈴木彩夏さんに参加いただき、お米のPRや来場者との交流を行い、大変盛り上がったイベントとなりました。



「天のつぶ」をPRしている様子



『「絆」で拓く！ふくしま未来農業創出事業』の第2回コンソーシアム会議の開催及び販促活動を行いました。

【田村農業普及所】

11月15日（水）、田村市船引町の堀越地区において、「株式会社ほりこしフォーライフ」が事業主体となり、今年度から実施している上記創出事業の検討会が開催されました。

会議には、構成員となっている農機具メーカーやJA、福島大学等の関係機関・団体が出席し、ほりこしフォーライフ及び田村農業普及所から事業の進捗状況や今後の計画についての説明、そして現地視察が行われ、積極的な意見交換が行われました。

また、11月23日（木）には、ほりこしフォーライフが同事業を活用して、東京都世田谷で開催された「下北沢あおぞらマルシェ」に出展しました。新米（チヨニシキなど）を販売するとともに、地元産の甘酒やりんご菓子などの加工品も販売しました。

新たに製作した小分け袋による新米の販売を通して、消費者の反応などを肌で感じるとともに、首都圏の消費者へ「たむら市ほりこし」をPRすることができました。



笑顔で販売。自慢の”ほりこしチヨニシキ”

「就農サポートパック・ツーリズム」を開催しました。

【企画部】

11月18日（土）、19日（日）に首都圏からの新規就農希望者や定住・二地域居住希望者を募集し、浅川町の農業体験や新規就農者用優先住宅建築現場の見学を行い、県農業総合センターで開催される「ふくしまからチャレンジ！！就農フェア」へ参加誘導する「就農サポートパック・ツーリズム」を開催し、2名の方の参加がありました。

18日（土）の浅川町では、城山山頂において町職員からの概要説明後、小針浩美氏のほ場に移動して、にんにくの植付け体験をしていただきました。

新規就農者用優先住宅の建築現場では、町職員から住宅の構造や完成スケジュールなど説明がありました。

平田村では「道の駅ひらた」の高野哲也駅長より、平田村の農産物の生産・販売の状況や、自らが移住し就農した体験談についてお話いただきました。

参加者には、平田村の農家民宿に宿泊してもらうとともに、翌19日（日）に郡山市で開催された「就農フェア」に参加していただきました。「就農フェア」では、就農・移住希望者向けの出展ブースを回り、相談や情報収集を行いました。



にんにくの植付け作業の様子



「道の駅ひらた」での様子

「ふくしまからチャレンジ！！就農フェア」が開催されました。

【田村農業普及所】

11月19日（日）、「ふくしまからチャレンジ！！就農フェア」が「たむらの新・農業人サポート協議会」の主催で開催されました。

就農フェアは、県内外からの新規就農希望者への就農支援を目的とし、県中エリアの市町村を中心に15のブースが出展しました。

東京都や宮城県等県内外から、幅広い年代の計30組が来場し、ブースでは就農前後の支援策や作付品目の選定など、就農に向けた積極的な相談が行われていました。

今後とも、次世代を担う農業者の誕生に向け、新規就農希望者に対し、関係機関・団体が連携してサポートしてまいります。



就農希望者の相談に熱心に対応する各ブース

ふくしま食育実践サポーターによる食育の授業が行われました。

【企画部】

11月20日（月）、郡山市立高倉小学校において、ふくしま食育実践サポーターである、株式会社明治の阿部裕子さんの授業が行われました。

授業では『子牛を育てるために、お母さん牛から搾ったものを私達に分けていただいているのが牛乳です。その牛のお世話を毎日しているのが、農家さんです。食べ物を食べる時には、常に「いただきます」という感謝の気持ちを忘れずにしましょうね。』という話から朝ごはんの大切さなど幅広い内容で行われました。

授業を受けた約30名の児童達は、人の脳は、睡眠中も活発に働いて脳から送り出されるいろいろな「ホルモン」が成長を助けていることや、体の調子を整えている事などや、早寝・早起き・朝御飯を食べることの大切さなど分かりやすい話に児童達も興味津々で聞き入っていました。『特に食品は働きによって赤・緑・黄の3つのグループに分けられ3色の食品を組み合わせると、栄養バランスの良い食事になるので、給食や家庭の食事でも確認してみて、足りない色があったら自分で考え、足してくださいね。』という話に児童達は自ら考えている様子でした。

楽しく学びながら自ら考えさせる食育の授業が児童達の心に刻まれることによって、感謝の気持ちが育まれることを願っています。



授業の様子



牛乳の説明を受ける様子



## 林業・木材産業見学ツアーを開催しました。

【森林林業部】

11月20日（月）、県立岩瀬農業高等学校環境工学科1年生37名を対象に、森林整備や木材加工の現場を体感するバスツアーを開催しました。

これは、緑の青年就業推進事業の一環として、林業分野への新規就業者の裾野を広げるために企画したものです。

ツアーでは、①高性能林業機械を活用した素材生産現場の見学（現場提供企業：株式会社アメリカ屋）、②大規模木造建築を可能とする大断面集成材の製造現場見学（現場提供企業：藤寿産業株式会社）、③数値制御による木質建築材料のプレカット工場見学（現場提供企業：福島県郡山地区木材木工工業団地協同組合）の行程で各事業者から熱心な説明が行われました。

生徒たちは初めて目にする林業機械や木材加工機に興味深く見学しており、森や木を相手にした「環境に貢献する仕事」への理解が大きく進みました。



高性能林業機械を使った伐木造材の様子



大断面集成材の製造工場

## 平成29年度第2回県中地方・地域産業6次化ネットワーク交流会及び、第2回県中地方・地域特産品創出クラスター分科会を開催しました。

【企画部】

11月22日（水）、玉川村就業改善センター研修室において、地域産業6次化ネットワーク会員の知識・商品力の向上、6次化商品のPRを行い、事業者間の交流・マッチングを図るため、ネットワーク交流会を開催しました。

併せて、地域特産品創出クラスター分科会を同時開催し、分科会において開発を進めている、県中地方の農産物を使用したお菓子（ふくなかすい一つ）等の試作品の紹介、試食・求評を実施しました。

交流会・分科会は、36名の参加のもと、前半では、講師の「NPO法人真・食の安全・安心支援機構」橘真美子上級コンサルタントから、「お客様の具体化から始まる商品デザイン」と題して講演があり、商品開発の際のコンセプト作りをどのように進めたら良いか、示唆に富んだお話をいただきました。

後半では、クラスター分科会において、今年度開発している玉川村産「さるなし」を使った7試作品について、参加する4事業者から紹介があり（焼きドーナツ、とんかつソース、ポン酢、しょうゆダレ、ババロア、レアチーズケーキ、ゼリー）、その他出品された2商品（平成29年7月の「さるなしサミット」で紹介されたさるなしロールケーキ、古殿町の大豆ミート）と併せて9品を参加者で試食しながら交流を図りました。

クラスター分科会試作品については、今回の試食に対していただいたアンケート結果、及び講師からの講評を参考にして、来年1月下旬の完成品発表に向けてブラッシュアップしていく予定です。



講演の様子



試食品求評の様子

**全国植樹祭カウントダウンスタートセレモニーが開催されました。**

【森林林業部】

11月22日(水)、「第69回全国植樹祭ふくしま2018」開催日の200日前を記念したカウントダウンスタートセレモニーが、JR東日本郡山駅で開催されました。

このセレモニーでは、GREEN制作の大会テーマソングが発表されるとともに、カウントダウンボードの除幕が行われました。

なお、このカウントダウンボードは、郡山駅のほか、県内の主要駅やサテライト会場となる「フォレストパークあだたら」、南相馬市役所にも設置されます。

これを契機に、大会開催に向けて、気運がさらに高まることが期待されます。



関係者による除幕



設置されたカウントダウンボード



ギャップ

# GAP

(農業生産工程管理)

## 取得しよう

## 認証

福島県では、品質の良い県産農産物を消費者に理解していただくため、2020年東京オリンピック・パラリンピックにおける食材調達基準にもなっている第三者認証GAPの取得を生産者の皆様にお勧めしています。

### 1 GAP認証のメリット(効果)

GAP認証を取得することにより、生産物の安全・安心確保や品質向上、販売競争力の強化などのメリット(効果)があります。一方で作業記録の整理や経費等の負担が発生することもありますので、県の補助事業や県独自の認証制度などの支援制度をご活用ください。

#### 主なメリット(効果)

生産 ・ 経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 食品安全リスクの低減 ⇒ 生産物の安全確保</li> <li>○ 栽培技術の改善 ⇒ 高品質・低コスト化</li> <li>○ 農場の作業環境改善 ⇒ 労働者の安全確保</li> <li>○ 周辺環境への配慮 ⇒ 環境保全</li> <li>○ 従事者の自主性向上 ⇒ 作業能率向上</li> <li>○ 顧客等に説明が容易 ⇒ 顧客等の信頼向上</li> </ul>
販売 ・ 流通	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高品質な生産物を販売 ⇒ 販売単価の向上</li> <li>○ 顧客・消費者の信頼向上</li> <li>○ 販売競争力の強化</li> <li>○ 東京オリンピック・パラリンピック供給基準達成 ⇒ 販路拡大</li> </ul>

#### GAP認証取得への福島県の支援

取組内容	県による支援
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ GAP手法の習得</li> <li>○ 認証機関のコンサルタントや審査費用負担</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ GAP指導員による支援(※1)</li> <li>○ 第三者認証GAP取得等促進事業(※2)</li> <li>○ ふくしま県GAP認証制度(FGAP)の創設(※3)</li> </ul>

### 2 県による支援内容

※1	GAP指導員による支援	県の普及指導員(JGAP指導員の資格を有する職員等)が相談に対応します。
※2	第三者認証GAP取得等促進事業	認証GAP実践や認証取得等に要する経費を補助します。
※3	ふくしま県GAP認証制度(FGAP)の創設	県独自の認証制度により経費負担が軽減され、取得までの時間の短縮が可能となります。

## お知らせ

### 日本なし樹木ジョイント仕立て研修会を開催します。

【須賀川農業普及所】

県内の各日本なし産地で「樹木ジョイント仕立て」の導入が進んでいます。早期成樹化、管理作業の省力化・効率化が図られる新技術です。皆さんも園地の改植に取り組み、生産性の向上を図りましょう。

《日 時》 平成29年12月11日（月） 13:30～15:30

《場 所》 きゅうりん館 大会議室  
須賀川市松塚字赤坂1-1

《内 容》 ①「攻めの農業技術革新事業実証ほ場の取り組みについて」  
県中農林事務所 須賀川農業普及所 担当者  
②「日本なしジョイント仕立てについて（仮題）」  
神奈川県農業技術センター 柴田健一郎氏  
③ジョイント栽培のせん定について（実演）

《お問い合わせ先》

県中農林事務所 須賀川農業普及所（0248-72-8331）

### 平成29年度食品表示法研修会を開催します。

【企画部】

平成27年4月からスタートした食品表示法も2年が経過しました。

平成29年9月からは新たな加工食品の原料原産地表示制度も施行され、より一層食品表示法についての御理解を深めて頂くため、農産物の加工グループや簡易な加工を行う個人の方、直売所関係者、直販を行う農業者の方などを対象に食品表示法研修会を下記により開催します。

《日 時》 平成29年12月13日（水） 13:30～15:30  
13:00より受付開始。

《会 場》 福島県環境創造センター（コミュタン福島）交流棟 会議室  
田村郡三春町深作10番2号（位置図参照）

《対 象 者》 農産物の加工グループや簡易な加工を行う個人の方、  
直売所関係者等約30名程度

《研修内容》 ①品質事項について（原材料名・産地表示など）  
②衛生事項について（アレルギー・賞味期限など）  
③保健事項について（栄養表示・機能性表示食品など）  
④その他

※なお、酒類は説明対象外となっております。

《お問い合わせ先》

県中農林事務所 企画部 指導調整課（024-935-1306）

位置図





お問い合わせ先



福島県県中農林事務所 企画部 地域農林企画課  
〒963-8540 福島県郡山市麓山一丁目1番1号  
TEL (024) 935-1510 FAX (024) 935-1314  
ホームページ <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36230a/>  
メールアドレス [kikaku.af02@pref.fukushima.lg.jp](mailto:kikaku.af02@pref.fukushima.lg.jp)